

「なんでも、たんとくと、くものゆめをみると、いいおむこさんがくると、みんながいうのだそうです」「まあ、それはほんとかい」「ほんとだそうです。けれども、そんなゆめをみたことが、あいてのおむこさんにわかると、だめになるのだそうです。ですから、ふたりのじょちゅうは、あたしに、そのゆめのことを、だれにもいってはいけないと、いいました」「まあ、おまえは、ほんとにばかだねえ。なぜ、そんなにたいせつなゆめを、おしゃべりしてしまうの」と、おかあさまのおきさきはほんとにざんねんそうにいわれました。「いいえ。おかあさま。あたしは、おむこさんなんかいないの。それよりも、そのおはなしをするほうが、よっぽどおもしろいの。だって、こんなにおもしろいゆめをみたことは、うまれてはじめてなのですから」「おまえは、ほんとにしょうがないおしゃべりだねえ。それじゃ、おまえのおもりのじょちゅうが、そのゆめのことを、そとへはなさないようにしましょう」と、おきさきさまがいわれました。「いいえ。かまわないのよ、おかあさま。じょちゅうがおはなししなくても、あたしが、おはなししますから、だめですよ」と、おしゃべりひめが、いいました。おうさまも、おきさきさまもおしゃべりひめのおしゃべりに、あきれておいでになるところへ、ひめのおつきのじょちゅうが、ふたりそろって、ひめのまえにきて、あたまをさげて、「おひめさま、おけしょうのおてつたいを